

土地分類基本調査

「下 呂」

5 万分の 1

国 土 調 査

岐 阜 県

1 9 9 6

序 文

この調査は、国土調査法に基づき国土の開発及び保全並びにその利用の高度化に資するために、国土の実態を科学的かつ総合的に調査したものです。

本県は、昭和57年度からこの調査を実施し、40の調査対象図幅のうち既に19図幅について印刷を完了しています。本書は、平成6年度から平成7年度にかけて調査した5万分の1地形図「下呂」について、「下呂」図幅として取りまとめたものです。

この調査の実施にあたって協力いただいた関係各位に対し深く感謝申し上げますとともに、この成果が今後、県土の秩序ある発展を図るための企画・立案の基礎資料として広く活用されることを希望します。

平成9年3月

岐阜県企画部長 岩垣 儀一

ま え が き

1. 本調査は、岐阜県が国土庁土地局国土調査課の指導を得て、実施したものです。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の3の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿です。
3. 本調査の実施及び成果の作成機関並びに担当者は、下記のとおりです。

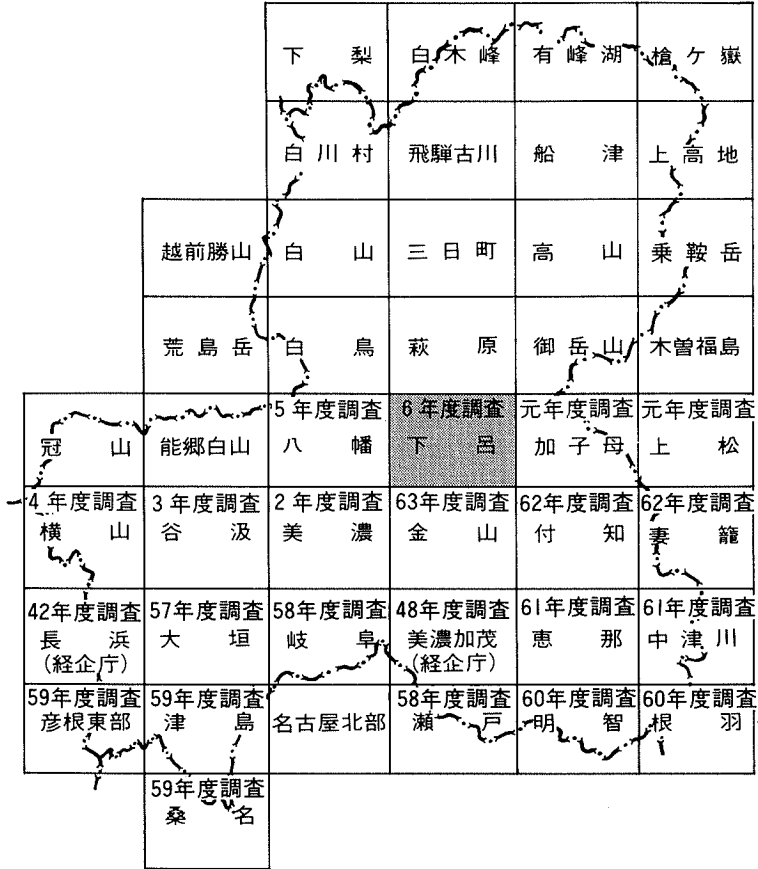
記

総 括	岐阜県企画部地域振興課		
地形分類調査	岐阜大学教育学部	教 授	関根 清
表層地質調査	〃	教 授	梶田 澄雄
	〃	助 教 授	小井土由光
土 壤 調 査	岐阜県農業総合 研究センター	主任専門研究員	丸山 靖志
	岐阜県林業センター	部 長 研 究 員	中村 基
	〃	専 門 研 究 員	川尻 秀樹
	〃	主 任 技 師	茂木 靖和
	〃	技 師	井川原弘一
土 地 利 用 現 況 調 査	岐阜大学農学部	助 教 授	木村 正信

目 次

総 論	
Ⅰ 位置および行政区画	1
Ⅱ 人 口	2
Ⅲ 産 業	4
各 論	
Ⅰ 地 形 分 類	9
Ⅱ 表 層 地 質	14
Ⅲ 土 壤	19
Ⅳ 土地利用現況	33

位置図



總

論

I 位置及び行政区画

1. 位置

この調査の対象地域は、建設省国土地理院発行5万分の1地形図の「下呂」図幅である。

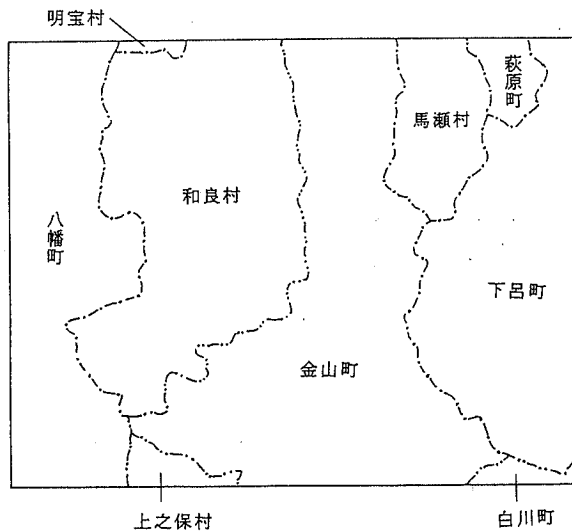
経緯度は、東経 $137^{\circ} 0' \sim 137^{\circ} 15'$ 、北緯 $35^{\circ} 40' \sim 35^{\circ} 50'$ の範囲である。

2. 行政区画

本図幅の行政区画は、上之保村、八幡町、明宝村、和良村、白川町、萩原町、下呂町、金山町及び馬瀬村の5町4村であり、それぞれの行政区域の一部からなっている。

(図一1 参照)

図一1 行政区画図



Ⅱ 人 口

調査区域にかかる 5 町 4 村の人口は73,092人（平成 7 年国勢調査早期集計結果）で、県人口の3.5%を占めている。

これらの全町村では、昭和55年から平成 7 年までに4,440人減少している。県平均で7.2%増加しているのに対し、5.7%の減少となっており、この地域全体で過疎化が進んでいる。

表一1 人口

区分 行政区域	昭 和 55 年		昭 和 60 年		平 成 2 年	
	人 口 (人)	世帯数 (戸)	人 口 (人)	世帯数 (戸)	人 口 (人)	世帯数 (戸)
上之保村	2,968	801	2,902	778	2,767	744
八幡町	18,813	5,400	18,230	5,367	17,620	5,317
明宝村	2,359	573	2,266	566	2,171	554
和良村	2,714	712	2,667	713	2,537	701
白川町	12,922	3,382	12,685	3,439	12,118	3,236
萩原町	11,349	2,879	11,578	2,960	11,522	3,118
下呂町	15,554	4,581	15,430	4,712	15,568	4,927
金山町	9,238	2,608	8,907	2,485	8,551	2,507
馬瀬村	1,615	423	1,631	421	1,560	411
計	77,532	21,359	76,296	21,441	74,414	21,515
県計	1,960,107	539,740	2,028,536	567,946	2,066,569	602,906

なお、平成7年国勢調査早期集計結果によると、萩原町、馬瀬村以外の町村では人口の減少傾向がみられ、特に金山町においては減少傾向が著しい。

(表—1)

平成7年		人口増減(人)			人口増減率(%)		
人口 (人)	世帯数 (戸)	55~60年	60~2年	2~7年	55~60年	60~2年	2~7年
2,691	756	△ 66	△ 135	△ 76	△ 2.2	△ 4.7	△ 2.7
17,262	5,513	△ 583	△ 610	△ 358	△ 3.1	△ 3.3	△ 2.0
2,153	558	△ 93	△ 95	△ 18	△ 3.9	△ 4.2	△ 0.8
2,459	778	△ 47	△ 130	△ 78	△ 1.7	△ 4.9	△ 3.1
11,681	3,245	△ 237	△ 567	△ 437	△ 1.8	△ 4.5	△ 3.6
11,679	3,340	229	△ 56	157	2.0	△ 0.5	1.4
15,438	5,103	△ 124	138	△ 130	△ 0.8	0.9	△ 0.8
8,111	2,545	△ 331	△ 356	△ 440	△ 3.6	△ 4.0	△ 5.1
1,618	432	16	△ 71	58	1.0	△ 4.4	3.7
73,092	22,270	△ 1,236	△ 1,882	△ 1,322	△ 1.6	△ 2.5	△ 1.8
2,100,317	645,361	68,429	38,033	33,748	3.5	1.9	1.6

資料 昭和55年、昭和60年及び平成2年の数値は、国勢調査結果による。

平成7年の数値は、平成7年国勢調査早期集計結果による。

Ⅲ 産 業

1 農林業

地域内の町村の総農家数は、6,632戸で、これは県下総農家数の7.3%にあたり、専業農家の割合は県平均の4.8%を下回る4.3%となっている。また、経営耕地面積は3,654haで、県下総経営耕地面積の5.6%を占め、農業粗生産額は県下全体の4.9%となっている。

この地域の農業粗生産額の生産種別構成を県下全体と比較すると、米及び野菜がやや低く畜産が高くなっている。町村別の特色を農業粗生産額の構成比から見ると、金山町及び上之保村では米、下呂町及び馬瀬村ではトマトを中心とした野菜、明宝村及び和良村では、肉用牛を中心とした畜産の構成比が高くなっている。

また、白川町ではお茶を中心としたその他の構成比が高くなっている。

(表-2)

表-2 農業の概要

区分 行政区域	農 家 数				経営耕地面積 (ha)	農業粗生産額 (百万円)				
	総 数 (戸)	専 業 (戸)	兼 業 (戸)	専業率 (%)		総 額	米	野菜	畜産	その他
上之保村	418	16	402	3.8	167	191	83	26	19	63
八幡町	1,084	39	1,045	3.6	628	1,126	426	157	330	213
明宝村	349	19	330	5.4	299	991	126	146	577	142
和良村	473	24	449	5.1	271	689	251	66	354	18
白川町	1,664	85	1,579	5.1	903	1,493	618	140	280	455
萩原町	849	28	821	3.3	450	1,130	335	324	334	137
下呂町	869	30	839	3.5	469	1,254	273	514	407	60
金山町	691	30	661	4.3	349	507	231	82	136	58
馬瀬村	235	15	220	6.4	118	376	76	175	113	12
計	6,632	286	6,346	4.3	3,654	7,757	2,419	1,630	2,550	1,158
県 計	91,435	4,431	87,004	4.8	64,900	158,283	53,835	38,456	45,184	20,808

資料 岐阜県農林水産統計年報(平成6~7年)による。(農家数は、「1995年世界農林業センサス」結果により、兼業農家には、自給的農家を含んでいる。)

林業については、地域内の町村の林野面積が126,068haで、県下総林野面積の14.5%を占めている。

また、民有林の比率は93.4%で、県平均の79.0%に比べ非常に高くなっている。民有林のうち人工林の比率は、全ての町村で県平均より高く、この地域全体では60.0%で、県平均の44.0%を大きく上回っている。

(表-3)

表-3 林業の概要

区分 行政 区域	林 野 面 積 (ha)				林 家 数 (戸)
	総 数	国 有 林	公 有 林	私 有 林	
上之保村	4,416	—	273	4,143	507
八幡町	22,329	141	470	21,718	1,590
明宝村	14,566	410	670	13,486	440
和良村	9,431	188	645	8,598	492
白川町	20,841	—	347	20,494	1,975
萩原町	12,799	2,469	957	9,373	1,268
下呂町	17,268	2,046	1,005	14,217	1,587
金山町	15,177	247	578	14,352	997
馬瀬村	9,241	2,848	292	6,101	317
計	126,068	8,349	5,237	112,482	9,173
県 計	868,210	181,781	69,762	616,667	64,537

資料 平成6年度岐阜県林業統計書による。(林家数は、「1990世界農林業センサス、林業事業体調査」の結果による。)

2 工 業

この地域の事業所数は、県全体の3.3%にあたる794事業所、従業員数は7,658人で、県全体の2.9%となっている。また、年間製造品出荷額は、1,025億円で、県全体の2.0%となっている。

この地域の1事業所あたりの平均従業員数は9.6人で、県平均の11.1人を1割程度下回っており、比較的規模の小さい事業所が多い。また、従業員1人あたりの年間製造品出荷額等も1,339万円で、県平均の1,946万円を31.2%下回っている。(表—4)

表—4 工業の概要

区分 行政 区域	事 業 所 数				従 業 者 数 (人)			年間製造品 出荷額等 (百万円)
	総 数	会 社	組合その 他の法人	個 人	総 数	常 勤 用 者	個人事業 主及び家 族従業員	
上之保村	49	9	1	39	273	215	58	3,664
八幡町	195	74	2	119	1,722	1,542	180	23,522
明宝村	27	5	2	20	213	186	27	1,456
和良村	43	15	—	28	359	321	38	3,503
白川町	133	51	2	80	1,194	1,066	128	13,069
萩原村	104	49	1	54	1,275	1,208	67	16,129
下呂町	131	48	3	80	1,295	1,168	127	24,161
金山町	98	40	3	55	1,243	1,160	83	16,400
馬瀬村	14	1	1	12	84	58	26	624
計	794	292	15	487	7,658	6,924	734	102,528
県 計	24,071	8,898	237	14,936	266,977	243,044	23,933	5,196,388

資料 平成5年工業統計調査結果による。

3 商 業

商店数は1,446店舗で、県下総商店数の4.1%、年間販売額は1,187億円で、県全体の1.9%となっている。商店のうち卸売業の占める割合は10.4%で、県平均の23.4%を大きく下回っている。

従業員1人あたりの年間販売額は2,034万円で、県平均の3,284万円を大きく下回っており、馬瀬村では県平均の約3割となっている。 (表—5)

表—5 商業の概要

行政 区域	商 店 数			従 業 者 数 (人)	年 間 販 売 額 (百万円)
	総 数	卸 売 業	小 売 業		
上 之 保 村	42	3	39	108	1,640
八 幡 町	454	53	401	1,651	31,130
明 宝 村	28	—	28	77	1,314
和 良 村	42	4	38	151	2,258
白 川 町	202	9	193	669	10,918
萩 原 町	204	29	175	930	21,697
下 呂 町	292	40	252	1,551	40,329
金 山 町	166	12	154	655	8,903
馬 瀬 村	16	1	15	45	536
計	1,446	151	1,295	5,837	118,725
県 計	34,890	8,163	26,727	185,791	6,100,767

資料 平成6年商業統計調査結果による。(代理商・仲立業を除く。)

各 論

I 地形分類

1 地形概説

日本はユーラシア大陸の縁辺部に位置し、プレート論的観点からは太平洋プレート・フィリピンプレートとアジアプレートとの会合部に位置する弧状列島からなっている。このような地殻運動の特徴を反映して、東北地方から中部地方を経て近畿地方北部に至る地域は、応力場的にはほぼ東西の最大圧縮応力場に位置し、これを反映して南北方向に軸をもつ曲隆と曲降の地形が規則的に配列、分布している。個々の山地の尾根や河谷などの地形にも、その配列や分布に規則性が認められる。これらの曲隆・曲降地形の波長は、約70~100kmのひろがりをもっている。

中部地方のような東西圧縮応力場の環境下では、曲隆・曲降運動の進展に伴って、傾斜の変換点の区域には帯状に応力が集中し、歪みの蓄積のために逆断層が多発し、曲隆部の地塊を一層隆起させ、断層山地が形成される。それ故に、曲隆部と曲降部との境には南北方向の逆断層が認められる場合が多い。これらの逆断層と共役関係にある副断層がこれにはほぼ直交・斜交状に発生している場合も多い。

また、このような応力場に急激な圧縮応力が加わる環境下では、応力軸に斜交する剪断応力性の断層と考えられる横ずれ断層が多発するようになる。このために、東西圧縮応力場の中部地方においては、北東~南西、北西~南東方向のA級活動度の横ずれ逆断層も卓越している。

以上のように、地殻運動の特徴を反映させて、中部地方における断層運動は、大局的には南北方向、東西方向、北東から南西方向、北西から南東方向への断層系として捉えることができる。上述した曲隆・曲降性の大地形はこれらの断層運動によって山塊状に細分され、それぞれの断層系の運動形態を反映させている。

日本アルプス東縁に位置する糸魚川-静岡線以西の中部地方から中国地方東部にかけての地域は、藤田(1980)が指摘しているように、東高西低の曲隆と曲降運動をくり返す傾動地塊からなるといわれている。本図幅地域は、

このうちの富山平野から伊勢湾に至る曲降性の地域内に位置する山地、飛騨山地（飛騨高原）から美濃山地（美濃高原）にかけての地域内に位置している。

本図幅内の山稜や河谷は、中部地方のこのような地殻運動や断層運動の特徴を反映して、全体的には北西～南東、北東～南西方向及び南北方向に配列する特徴を有している。飛騨・美濃両山地は全体的には定高性の壮年期山地を形成しているが、美濃山地の南東端部（本図幅外）には適応単位丘的地形からなる老年期地形を示す地形もみられる。

また、飛騨川本流は、下呂温泉の下流のいわゆる「中山七里」で、流路を南東流から南西流に変え、峡谷からなる先行谷を形成している。

本図幅の北東端には地震災害的には危険度がA級の左横ずれ活断層である阿寺断層が位置している。従って、本図幅内には活断層起因の断層地形やこれに類似する断層地形及び活断層を推定させる地形的リニアメントが卓越している。

本図幅内の台地は、長良川水系の支流吉田川河谷と飛騨川水系の河谷沿いに分布する河岸段丘からなる地形である。これらの段丘地形は2段の段丘地形からなっているので、ここでは地形面の河床からの高度（比高）によって中位段丘、下位段丘に便宜的に細分した。

本図幅内の地域は中・古生界のチャート、砂岩、粘板岩、石灰岩などの地質と濃飛流紋岩類などの地質からなる。

2 山 地

日本アルプスから中国地方東部にかけての地域は、大局的には曲隆・曲降の連続する地盤運動からなる地域であり、地形もこの地質構造の影響を受けている。本図幅の山地は、富山湾から伊勢湾に至る曲降部にあたる地域に位置する山地、飛騨山地と美濃山地からなりたっている。中部地方の断層運動の特徴を反映して、山地は地塊化し、山稜線の方向や山地内の河谷の流向は、全体的には北西～南東、北東～南西及び南～北方向が卓越する分布的特徴を有する。このために、本図幅内の山地は、これらの河谷によって区分された

小山塊に細分される。

本図幅内の山地をここでは便宜的に、位山分水嶺山地、郡上・美濃山地、上之保山地、阿寺山地、佐見山地に細分した。

(1) 位山分水嶺山地 (I a)

位山分水嶺山地は鷲ヶ岳(1672m)・烏帽子岳(1625m)・川上岳(1626m)・位山(1529m)などからなる山地である。行政的には北飛騨と南飛騨との境界を形成しているものの、地形的・気候的には飛騨と美濃との分水嶺を形成している山地である。地形的には日本海側と太平洋側との地形界を、気候的には日本海型気候と太平洋型気候との気候界を形成している。

本図幅内には北西端と東部の飛騨川右岸に二分して位置している。後者の飛騨川右岸に連なる山稜線は下呂温泉下流の中山七里右岸にまで連続している。この中山七里右岸の山稜線の一部について、「加子母」・「上松」図幅では馬瀬山地なる名称を便宜的に使用したが、ここでは地形的連続性を考慮して標記山地に訂正する。

(2) 郡上・美濃山地 (I b)

郡上・美濃山地は西を長良川本流、北を吉田川、東・南を飛騨川の支流、馬瀬川と長良川の支流の津保川で境される北高南低の高度約1000m以下の南北稜山地である。この山地の南部(本図幅外)には北西から南東方向に「逆くの字」型にのびるチャート山稜線とする組織地形が認められ、景観的には晩壮年期の山地景観を呈している。本図幅にはこの山地の中央部が位置し、石灰岩がつくる独特な地形、カルスト地形も分布している。この石灰洞でも断続的な断層運動に起因した石灰洞床の段階的上昇による複層化がみられ、動物化石の種類やその産状から、この断層の開始時期は、第四紀になってからであるという(梶田1970)。

(3) 上之保山地 (I c)

上之保山地は飛騨川と津保川とで境された山地で、御前ヶ岳(663.7m)、

高岡山(603m)、岳山(599m)、梶現山(524.7m)などの山々からなる。北高南低の定高性の山地で、南部(本図幅外)にはロックコントロールによるチャートの山稜線からなる組織地形が顕著に発達している。本図幅には北部の一部地域が含まれている。

(4) 阿寺山地 (I d)

阿寺山地は、小秀山(1982m)を最高峰とする北西～南東方向に連なる山地である。阿寺山地内の河谷は、阿寺断層系の断層とこれに共役関係の断層によって、北西から南東方向と北東から南西方向の2方向性をもつ特徴的な規則性を示している。本図幅には北東端に阿寺山地の一部が位置している。

(5) 佐見山地 (I e)

佐見山地は、東に尾城山(1132.9m)、西に高天良山(908.0m)をもつ山地からなり、阿寺断層及び加子母川・白川・飛騨川によって包囲された山地である。北東から南西方向へ高度をさげる標高1100mから800m内外の定高性の山頂部からなる山地である。また、この山地には北西から南東方向、北東から南西方向の河谷が卓越している。本図幅には佐見山地の北西部が位置している。

3 台 地

本図幅の台地は、長良川水系の吉田川と飛騨川水系の河谷内に分布する形成時期の異なる2段の河岸段丘からなる砂礫台地である。このうち後者の飛騨川本流沿いは、飛騨川が峡谷を形成する先行谷区域にあたるために台地の発達はよくない。当然のことながら、形成時期の古い段丘ほど同一断面においては高位に位置し、より長い侵蝕作用を受けてるために地形面の保存状況は悪くなっている。

ここでは、便宜的に、郡上八幡台地(II a)、萩原・下呂台地(II b)と馬瀬川台地(II c)に細分した。

(1) 郡上八幡台地 (Ⅱa)

この台地は、地形的には長良川上流域の小谷底平野（長良川本流と支流吉田川との合流部とその周辺の谷底部）に分布する河岸段丘からなる沖積台地である。本図幅内には、この台地の一部を構成する吉田川中流域の台地が位置している。3段の河岸段丘からなる砂礫台地であるが、上位段丘（本図幅外）の残存状況は著しく限定されている。

(2) 萩原・下呂台地 (Ⅱc)

この台地は飛騨川本流沿いの萩原・下呂付近を中心にひろがる河岸段丘と阿寺断層系の下呂断層崖麓に形成された扇状地からなる。本図幅にはそのうちの下呂温泉郷の地域が位置するが、人工的地形改変が著しく本来の地形面の復元は困難である。ここには中位段丘面と低位段丘面に対比される地形面が存在している。

(3) 馬瀬川台地 (Ⅱb)

この台地は、飛騨川支流の馬瀬川河谷に形成された台地である。地形的には馬瀬川中・下流域の小盆地（複数の河谷の合流によって形成された小谷底平野）と馬瀬川本流沿いに分布する河岸段丘からなる台地である。

4 参考文献

梶田澄雄(1970)：岐阜県中部地震—1969年9月9日—の地震域の地質、
地震研い報、vol.48、p.1281~1286

藤田和夫(1983)：日本の山地形成論、466p.、蒼樹書房

Ⅱ 表層地質

1 表層地質概説

本図幅地域には、おもな地質要素として北半部～東半部の広い地域に火山性岩石の「濃飛流紋岩」とそれを除く南西部の地域に固結堆積物の「美濃帯中・古生層」がそれぞれ分布する。これらを基盤として、未固結堆積物がおもな河川沿いに分布する。

本図幅内における最古の地質要素は古生代末期～中生代初期に形成された「美濃帯中・古生層」である。その構成岩石は分布域の南部と北部で大きく異なる。南部地域はおもにメランジュと呼ばれる地層群からなり、泥質岩、砂岩、チャートなどが無秩序に混ざりあった岩相を示す。北部地域は、砂岩とチャート、それらに石灰岩と玄武岩質岩石が複雑に混ざりあって分布する地層群からなり、陸地（砂岩）と大洋底（石灰岩・玄武岩質岩）というまったく異なる供給起源をもつ岩石が共存する。

「美濃帯中・古生層」を覆って、「濃飛流紋岩」が広大な面積を占めて分布する。この岩体は、中生代の末期に激しい火山活動によって形成された巨大な火山岩体であり、おもに流紋岩質の堅固な溶結凝灰岩からなり、非溶結の火山性岩石を挟み、ほぼ同時期に形成された深成岩の花崗斑岩を密接にともなう。

図幅北西端部には、鮮新世～更新世の「凝灰角礫岩または火山角礫岩」からなる烏帽子火山岩類がわずかに分布する。

2 地表地質細説

(1) 未固結堆積物

a) 礫がち堆積物 (g₁)

飛騨川・馬瀬川・和良川・吉田川などの比較的規模の大きい河川およびそれらの支流を埋めて分布する沖積層である。ほとんどが耕作地や宅地に改変されており、段丘堆積物や崩積堆積物とともに山間部における重要な生活

の場を提供している。

b) 礫がち堆積物 (g₂)

比較的規模の大きい河川においてはおもに段丘堆積物、それらの支流・支谷においてはおもに崩積堆積物である。前者では亜円礫～円礫から、後者では亜角礫～亜円礫からそれぞれなり、場所によっては両者の区別が明瞭につかない場合もある。

(2) 固結堆積物

a) 凝灰角礫岩または火山角礫岩 (tb)

本図幅北隣の萩原図幅西端に位置する烏帽子岳を中心に分布する烏帽子岳火山岩類の南東端部にあたる部分が、本図幅北西隅にわずかに分布する。凝灰質の基質中に安山岩質の角礫－亜角礫が含まれる。

b) 砂岩 (ss)

図幅の中央部から西部へかけて帯状に比較的広く分布するほか、図幅南端部にも帯状に分布する。チャートの分布域にくらべ相対的になだらかな地形をなすことが多い。全体として塊状の砂岩を優勢とし、しばしば礫岩をはさむ。

砂岩は本来堅固な岩石であるが、風化が進み脆くなっていることが多い。新鮮な部分は碎石の原材として良好である。

c) 泥質岩 (sh)

図幅の西部や南西部の限られた地域に帯状に分布するにすぎない。砂岩泥岩互層のうち泥岩優勢部となっていることが多い。

泥岩も本来は堅固な岩石であるが、風化が進むと砂岩よりも脆くなり、剥離性に富む岩石となる。

d) チャート (ch)

美濃帯中・古生層を代表する岩石の一つであり、図幅内の美濃帯中・古生層分布域に帯状あるいはレンズ状に広範囲にわたって分布する。いわゆるチャートのほかに、珪質泥岩や珪質粘土岩もこれに含む。

極めて堅固な岩石であり、風化に強いいため、急峻な地形をなすことが多いが、数㊦単位で層をなし、小規模な褶曲をとともなうことが多く、全体に均質な堅い岩体を形成しているわけではない。

e) メランジュ (m)

図幅の南部に比較的広く分布する。泥質の基質中に砂岩、チャートなどの岩塊が大小様々に雑然と入っており、これらの岩石が海底地滑りなどで崩壊して再堆積したものと考えられている。

本来は堅固な岩石であるが、弱い剥離性をもつ。

f) 石灰岩 (ls)

図幅の西部に東西方向に帯状あるいはレンズ状に集中して分布し、玄武岩質岩石をいっしょにとまわることが多い。

岩石としては堅固であるが、水による溶解が比較的容易に進行するため、この地域に多くの鍾乳洞が形成されている。

g) 玄武岩質岩石 (sch)

上記の石灰岩と密接にとまなつて分布し、玄武岩質の溶岩あるいは火砕岩からなる。緑灰色を示すことが多く、かつては輝緑凝灰岩あるいはシャールスタインと呼ばれていた岩石である。この岩石と石灰岩は、当時の海洋底に噴出した火山体（海山）とその上に載る珊瑚礁を想起させる。

本来は堅固な岩石であるが、風化が進むと脆くなる。

(3) 火山性岩石

a) 安山岩質岩石 (A)

図幅のほぼ中央部の幅5㉓ほどの範囲に北西—南東方向に並んだ岩脈群を形成して分布する。個々の岩体は幅1—3㉓の小規模な岩体であり、細粒の均質な安山岩質の岩石からなる。形成時代は明かでないが、新第三紀中新世ごろとする考えもある。

いずれも少なからず変質作用を受け、風化がかなり進行しており、堅固な岩石は得られない。

b) 流紋岩質岩石 (溶結) (R_{y1})

濃飛流紋岩の主体をなす岩相であり、図幅内の濃飛流紋岩分布域にひろく分布する。石英、斜長石、カリ長石の結晶片を多量に含み、少量の有色鉱物をともなう流紋岩質～流紋デイサイト質の溶結凝灰岩からなる。岩相や岩質の相違から7枚の溶結凝灰岩層に区分され、全体に堅硬である。

c) 流紋岩質岩石 (非溶結) (R_{y2})

濃飛流紋岩のうち溶結凝灰岩層をのぞく火山性碎屑岩に相当し、図幅の南部にやや広く分布するほかは、溶結凝灰岩層に挟まれて帯状に分布する。

おもに結晶凝灰岩、火山礫凝灰岩、火山角礫岩、凝灰質砂岩・礫岩などからなり、一部に火道角礫岩と思われる脈状に貫く凝灰角礫岩をともなう。全体に堅硬である。

(4) 深成岩

a) 花崗斑岩 (Gp)

花崗斑岩は濃飛流紋岩に密接にともなわれる貫入岩類であり、花崗斑岩と花崗閃緑斑岩にわけられ、いずれも堅硬な岩石として産する。

花崗斑岩は、図幅内の各所に小規模な岩脈として分布するが、とりわけ図幅の南東部で小規模な岩体が北東—南西方向に走る岩脈群を形成している。カリ長石の斑状結晶をともない、微晶質の基質をもつ。

花崗閃緑斑岩は、図幅の中央部付近と北部に比較的大きな岩体として分布する。カリ長石・石英・斜長石の斑状結晶をともない、花崗斑岩にくらべると黒雲母や角閃石などの苦鉄質鉱物を多く含み、基質は全体に完晶質である。

3 資 料

下記の資料に詳しい。

脇田浩二・小井土由光(1994) 下呂地域の地質。地域地質研究報告
(5万分の1地質図幅)、地質調査所、
79P.

Ⅲ 土 壤

林 地 土 壤

この図幅は、岐阜県の中央部に位置し、広範に続いた岐阜県南部山地の様相が県中央部の様相に移行していく地帯にあたる。

この図幅を大きく2分すると、図の南東部から図の西北部にかけて斜めに分割することができる。

分割した北部山地帯の稜線は、標高900mから1,000m級の山地であり、起伏量の大きな地形になっている。この地帯は岩石の露出地が多く、また、谷斜面には石礫が細長く分布する箇所が多い。飛騨川沿いの斜面には、急崖や岩石の露出地が多く、また、広範にわたり石礫地が続いている。この地帯の土壤は、1,000m以上の尾根部に乾性ポドゾルが出現し、鞍部を除く尾根部に乾性褐色森林土が広く分布する。また、山腹斜面を中心にして褐色森林土が広範に分布し、一部であるが傾斜の緩い山脚部に黒ボク土がみられる。

一方、分割した南部山地帯の稜線は、標高600m～700m級の山地であり、地形の褶曲が多い。この地帯の鞍部を除く尾根部には乾性褐色森林土が広範に分布する。また、山腹面にはB₀(d)型を主とする褐色森林土が分布する。なお、八幡町美山の小起伏の山地では基岩に由来する暗赤色土が出現する。

本図幅に出現する土壤は、表-1の土壤統一覧表に示したように6土壤群、8土壤統群に分けられる。

なお、この図幅にはマツ枯れが見られないことから、森林資源は充実しており、森林景観も良好な様相をしている。

1 岩石地

濃飛流紋岩の山地に多く分布しており、特に飛騨川沿いに出現している急崖や露出岩は代表的である。この他、図幅北西部の京塚山に接する大洞谷流域には露出岩が広範に分布する。

植生は、岩と岩の間にアカマツが更新していることが多い。

2 岩屑土

濃飛流紋岩の山地に広く分布する。特に飛騨川沿いには広範に出現し、この他、京塚山に接する大洞谷流域、和良村オンボ谷、東仙峡金山湖周辺等の谷傾斜に多い。これらのところは、広葉樹の粗林になっている箇所が多い。

なお、崩壊箇所についても岩屑土に包含して図化した。

3 黒ボク土

この土壤は、火山灰を母材とするもので黒色のA層が厚い。主たる分布箇所は図幅北東部の山脚緩斜面で、F層が厚く粒状、塊状構造といったやや乾性の構造が発達するB₁。(d)型土壤が広く出現する。A層には中～大の半角礫が多くみられる。

植生は、ヒノキ造林地が多く、下層植生にはコナラ、タカノツメ、アカシデ、コアジサイ、オトコヨウゾメ、アセビ、ヒカゲノカズラ等がみられる。図幅の西部では、小面積分布しているが、A層に礫を含まないものが多い。

4 褐色森林土

褐色森林土は、本図幅の主体をなすもので、2土壤統群に分けて図化した。乾性褐色森林土壤は、山地の尾根稜線部に分布する。褐色森林土壤は、山地の尾根鞍部～斜面に広く分布する。なお、和良村地内のオンボ谷と、八幡町地内の大洞谷には谷沿いに幅狭く湿性褐色森林土壤が分布するが、土壤統群を区分するに至らなかった。

(1) 乾性褐色森林土壤

乾性褐色森林土壤は、B_A、B_B、B_C型土壤にあたるもので、主体はB_B型土壤である。しかし、チャートの山地帯ではB_A型土壤が多くみられる。B_B型土壤ではF層が厚く堆積し粒状構造が発達している。図幅には、曾木統、貝戸1統、高戸山1統、笠置1統の4統が分布するが、いずれも土地生産力は低い。

植生は、図幅の南部地帯でアカマツ林とその混交林が多い。下層植生には

アセビ、ネジキ、リヨウブ、シロモジ、ソヨゴ、ネザサ、ヤマウルシ、エゴノキ、マンサク、シロモジ、バイカツツジ、ミツバツツジ、クリ、クロモジ、ザイフリボク等がみられる。また、図幅の北部地帯では、広葉樹林の他モミ、ツガ、コウヤマキが混在している。下層植生にはコナラ、リヨウブ、ウラジロノキ、ミツバツツジ、ドウダンツツジ、バイカツツジ、マンサク、ツクバネ、ミヤマシキミ、クロソヨゴ、ザイフリボク、ブナ、ヨウラクツツジ、オトコヨウゾメ、スノキ、ヤマウルシ、クリ、シロモジ、アセビ、アクシバ、ソヨゴ、クロモジ、ダンコウバイ、タカノツメ等がみられる。

① 曾木統

中生界の堆積岩のうち砂岩、泥質岩を主として、このほかチャート等を母材とした山地の尾根や斜面上部に分布する残積性の土壤である。A₀層は5cm以上と厚く、とくにF、H層がよく発達する。砂岩、泥質岩を母材とするものは、粒状構造の発達したB₀型土壤が多く、チャートのヤセ尾根に分布するものは、細粒状構造の発達したB₀型土壤が多い。土性は壤土から埴壤土が多い。生産力の低い土壤で図幅の南西部に分布する。

② 貝戸1統

主に中生界の堆積岩を母材とするもので、砂岩泥岩互層が主体をなしている。起伏量の多き山地の尾根に多く、残積性の土壤である。主として粒状構造が発達したB₀型土壤が多いが、凸型のヤセ尾根には細粒状構造が発達したB₀型土壤がみられる。A₀層は、F、H層が発達する。土性は壤土から埴壤土が多い。チャートを母材にしたものは特に生産力が劣る。図幅の西部中央に分布する。

③ 高戸山1統

花崗閃緑斑岩を母材として、山地の尾根、斜面上部に分布する残積性の土壤である。A₀層は厚く、L、F、H層がよく発達する。土性は壤土から砂壤土が多い。また、図幅内の他の統に比較して中半角礫は少ない。北部に分布

するものは比較的生産力が高い。図幅の中央から北部にかけて小面積分布する。

④ 笠置1統

濃飛流紋岩類を母材として、山地の尾根に分布する残積性の土壌である。B_B型土壌が多く、B層に堅果状構造の発達するものが多い。土層はやや深く各層位に角礫が多い。土性は砂壤土から埴壤土である。図幅の北東部に大面積分布する。

(2) 褐色森林土壌

褐色森林土壌は、山腹凸斜面から尾根鞍部にかけてがB_D(d)型土壌に、山腹凹斜面や谷沿いがB_B型土壌に相当し、久田見統、貝戸2統、高戸山2統、笠置2統、古道2統の5統が分布する。全体としてB_D(d)型土壌の占める割合が多い。A層は10cm～20cm、斜面中腹部では塊状構造、谷沿い斜面では団粒状構造が発達する。壮年期地形の多い北部山地は生産力が高い。

植生は、スギ、ヒノキ人工林、天然広葉樹林が多い。広葉樹林には、コナラ、ミズナラ、アカシデ、ブナ、クリ、サクラ類、ウリカエデ、ウリハダカエデ、フサザクラ等が生育する。下層植生は、アクシバ、ウラジロノキ、アワブキ、マルバノキ、シロモジ、ミヤマトサミズキ、ベニマンサク、エゴノキ、クロモジ、コハウチワカエデ、ミヤマハハソ、クマアジサイ、シラキ、アカメガシワ、キイチゴ、イヌガヤ、コアジサイ、アカソ、アケビ、チゴユリ、シシガシラ、ジュウモンジシダ等が生育する。

① 久田見統

主に中生界の砂岩、泥質岩の他チャート等を母材として、起伏量の小さい山地斜面の中、下部に分布する。A₀層はほとんど発達しない。A層には塊状構造が発達する。チャートを母材とするものは小角礫を含む。土性は、壤土から埴土が多い。図幅の南西部に分布する。

② 貝戸2統

主に中生界の堆積岩を母材とするもので砂岩泥岩互層が主体をなしている。起伏量の大きい山地斜面の中、下部に分布する。A₀層はほとんど発達しない。全体に小角礫を含む。斜面中心のA層は、ゆるい堅果状構造から塊状構造が発達する。斜面下部のA層は団粒状構造が発達する。土性は埴壤土が多い。図幅の西部中央に分布する。

③ 高戸山2統

花崗閃緑斑岩を母材として、山地斜面の中、下部に分布する。A₀層は薄く堆積する。図幅の北部ではB₀型土壌が多く、塊状構造から団粒状構造が発達する。下層ほど石礫が多い。図幅の中央では、やや乾性なB₀(d)型土壌が多い。A層は、暗褐色で腐植の量が比較的少ないことが多い。土性は、壤土から砂壤土である。図幅の中央から北部にかけて小面積分布する。

④ 笠置2統

濃飛流紋岩類を母材として、山地斜面の中、下部に分布する。A層の色が淡く、B₀(d)型土壌が多く分布している。B層は角礫が多い。土性は埴壤土から埴土である。谷沿いの斜面を主体に石礫が多くみられる。特に飛驒川沿いの斜面は全体に石礫が多い。北部にみられる起伏の大きい山地では谷沿いに狭くB₁型土壌が分布するが、この中に包含した。図幅の北東部に大面積分布する。

⑤ 古道2統

安山岩類を母材として、山地の斜面に分布する。B₀(d)型土壌を主とし、A層に粒状構造や団粒状構造の発達する。土性は、埴土から埴壤土である。図幅の西北部にごく小面積分布する。

5 ポドゾル

ポドゾルは、A層に溶脱層、B層に集積層が認められる寒冷地の土壌で、

乾性ポドゾル化土壤、湿性ポドゾル化土壤がある。この図幅では乾性ポドゾル化土壤が分布する。厚いA_o層が発達する。標高約1,000mを越える山地の尾根に分布する。

(1) 乾性ポドゾル化土壤

本図幅の乾性ポドゾル化土壤は、P_{DII}型、P_{DIII}型土壤に相当する。落葉落枝の分解が悪いため厚いA_o層が堆積する。図幅の北西部ではモミ、コウヤマキ、ツガ等の林下にみられるが、北東部ではミズナラ、コナラ林にも出現する。顕著な溶脱層は認められない。土性は、壤土から埴壤土が多い。土地生産力は非常に低い。

植生は、モミ、コウヤマキ、ミズナラ、ブナの混交する森林、または、ミズナラを主とする広葉樹林が多い。下層植生にはソヨゴ、アセビ、マルバノキ、ウラジロヨウラク、ドウダンツツジ、シロモジ、マンサク、リョウブ、シキミ、ヤマウルシが生育する。図幅の北部に小面積分布する。

6 赤黄色土

赤黄色土には、乾性暗赤色土壤、暗赤色土壤が分布する。両土壤とも石灰岩、玄武岩を母材としB層が赤色から暗赤色を呈する土壤で、乾性暗赤色土壤は緩い尾根に、暗赤色土壤は山地斜面に分布する。

植生は、スギ、ヒノキ人工林、落葉広葉樹林かアカマツ混交林が多い。下層植生には、シロモジ、コアジサイ、ホオノキ、タカノツメ等が生育する。

(1) 乾性暗赤色土壤

① 安久田1統

石灰岩を母材として、山地の緩い尾根に分布する残積性の土壤である。eDR_B、eDR_C型土壤に相当する。A_o層が薄く、A層が10cm以下で粒状構造から堅果状構造が発達する。B層は、チョコレート色に近い暗赤色のものが多いが、母材が紅色の石灰岩の場合には赤色を呈する。土性は埴土から埴壤土である。図幅の西部中央に小面積分布する。

② 新宮1統

玄武岩を母材として、山地の緩い尾根に分布する残積性の土壌である。dDR_B、dDR_C型土壌に相当する。F、H層が薄く、A層に粒状構造や堅果状構造が発達する。B層は赤色を呈する。土性は埴土から埴壤土である。図幅の西部中央に小面積分布する。

(2) 暗赤色土壌

① 安久田2統

石灰岩を母材として、起伏が小さい緩い斜面に分布する。匍行～崩積性の土壌である。eDR_D(d)、eDR_D型土壌に相当する。団粒状構造が発達している。土性は埴土から埴壤土で、下層に石礫の富むことが多い。図幅の西部中央に小面積分布する。

② 新宮2統

玄武岩を母材として、起伏が小さい緩い斜面に分布する。匍行～崩積性の土壌である。dDR_D(d)、dDR_D型土壌に相当する。団粒状構造が発達している。土性は埴土から埴壤土で、下層に大きな石礫の富むことが多い。図幅の西部中央に小面積分布する。

表—1 土壤統一覽表

土壤群	土壤統群	土壤統	母材	地形
岩石地	岩石地	—	—	—
岩屑土	岩屑性土壤	—	—	崖錐の下部 濃飛流紋岩の谷斜面
黒ボク土	黒ボク土壤	—	—	山地緩斜面
褐色森林土	乾性 褐色森林土壤	曾木統 貝戸1統 高戸山1統 笠置1統	中生界堆積岩 中生界堆積岩 中生界花崗斑岩 濃飛流紋岩類	山地尾根、斜面上部 山地尾根、斜面上部 山地尾根、斜面上部 山地尾根、斜面上部
	褐色森林土壤	久田見統 貝戸2統 高戸山2統 笠置2統 古道2統	中生界堆積岩 中生界堆積岩 中生界花崗斑岩 濃飛流紋岩類 安山岩類	山地斜面 山地斜面 山地斜面 山地斜面 山地斜面
ポドゾル	乾性 ポドゾル化土壤	—	—	山地瘦せ尾根
赤黄色土	乾性暗赤色土壤	安久田1統 新宮1統	石灰岩 玄武岩	緩い山地尾根 緩い山地尾根
	暗赤色土壤	安久田2統 新宮2統	石灰岩 玄武岩	緩い山地斜面 緩い山地斜面

農 地 土 壤

1. 地域の概要

本地域は、岐阜県の中央部に位置し、和良村及び金山町の大半、八幡町の東部、下呂町の西部、上之保村北部・白川町北部・馬瀬村南部・萩原町南部の一部からなっている。

農地は、長良川の支流の吉田川及び津保川の流域、飛騨川及び支流の馬瀬川、和良川の流域に分布している。

7町村の全面積に対する土地利用状況は、約90%が林野によって占められているため、耕地面積は少ない。それぞれの町村の農地割合は、上之保村3.3%、八幡町2.6%、和良村2.7%、白川村3.8%、萩原村3.1%、下呂町2.4%、金山町2.1%、馬瀬村1.2%といずれも少ない。

これら農地のうち、水田の大部分は地域内の河川沿いに分布し、また畑地及び樹園地等は山麓傾斜地に分布しており、それぞれ水稻、野菜及び茶等が栽培されている。

土壌は地形、地勢が複雑なため他種類の土壌群が混在している。水田土壌では、灰色低地土、多湿黒ボク土が主体であるが、黄色土、グライ土、褐色低地土も散在する。畑地土壌では岩屑土、黒ボク土が主体で、一部褐色低地土、黄色土も散在する。

2. 土壌統群の分布

岩屑土は上之保村、八幡町、和良村、下呂町、金山町の山麓傾斜地に分布し、畑地、樹園地等として利用されている。

水田として利用されている多湿黒ボク土のうち、厚層腐植質多湿黒ボク土は萩原町、下呂町、金山町、馬瀬村に、表層腐植質多湿黒ボク土は八幡町に、表層多腐植質黒ボク土は和良村、白川町に分布している。

畑地として利用されている黒ボク土のうち、厚層腐植質黒ボク土は八幡町、和良村、金山町に、表層腐植質黒ボク土は八幡町、和良村、萩原町、下呂町、金山町に分布している。

黄色土のうち、水田に利用されている細粒黄色土・斑紋ありは上之保村、八幡町、下呂町、金山町に分布している。また、畑地に利用されている礫質黄色土は八幡のみに分布している。

褐色低地土のうち、中粗粒褐色低地土、斑紋ありは下呂町の一部の水田に、また、中粗粒褐色低地土・斑紋なしは八幡町、和良村、馬瀬村の一部の畑地に、礫質褐色低地土・斑紋なしは八幡町、馬瀬村の一部の畑地に点在している。

灰色低地土のうち、細粒灰色低地土・灰色系は八幡町、和良村に、中粗粒灰色低地土・灰色系又は灰褐色及び礫湿灰色低地土・灰色系・灰褐色は上之保村、八幡町、和良村、下呂町、金山町、馬瀬村に広く分布し、水田に利用されている。

グライ土のうち、細粒強グライ土は下呂町、金山町の一部に、中粗粒強グライ土は八幡町、金山町の一部にそれぞれ分布し、水田として利用される。

3. 土壤群別細説

(1) 岩屑土 (01)

土性は、強粘質～壤質。30cm以内から砂礫層となり、山地・丘陵地斜面に分布する。排水は極めて良く、一般に土壌が浅く、桑園・樹園地等に利用されるが、表土の厚さ、有機物含量、養分の供給・保持力等の面で欠陥が認められる。

(2) 黒ボク土 (03, 04, 05)

土性は、壤質～粘質。腐植含量は富む～頗る富む。母材は火山噴出物からできた土壌で、保肥力が低く、磷酸や塩基類に乏しい(03)。多湿黒ボク土(04)は、大地凹部又は沖積低地凹部に分布し、不良な排水条件にできた土壌である。黒ボクグライ土(05)は、多湿黒ボク土と同様にほぼ全層がグライ層で、下層にしばしば泥炭や黒泥が混在する。

(3) 黄色土 (10)

土性は、強粘質～壤質。腐植含量は少ない。土色は黄色味が強く、丘陵地に分布し、協酸性で塩基性に乏しい。この土壤は保肥力、養分供給力等に基本的な欠陥が認められる。

(4) 褐色低地土 (12)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質と変化が大きい。土色は、ほぼ全層が褐色を示し、微高地に分布し、排水が良く、腐植含量が少ない。

(5) 灰色低地土 (13)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質と変化が大きい。土色は、ほぼ全層が灰色又は灰褐色を示す。沖積地帯に分布するが、グライ土に比べて地下水位が低く、排水が良く、腐植含量は少ない。この土壤は保肥力が強くて養分供給能に富み、高い水稻生産力を示し、本県の水田土壤としてはかなり特異的である。

(6) グライ土 (14)

土性は、強粘質・粘質・壤質・砂質で変化が大きい。土色は、青灰色で、グライ層が現れる位置で細分化される。沖積地帯に分布し、排水が悪く、腐植含量は一部を除いて少ない。

4. 市町村別土壤統群面積一覧表

(1) 水田の部

市町村名	土壤群名	土 壤 統 群 名	土壤群番 号	分布面積 (ha)	備 考
上之保村	黄色土	細粒黄色土斑紋あり	1017	34	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。
	灰色低地土	礫質灰色低地土灰褐色系	1322	16	
八幡町	多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土	0432	77	同上
	黄色土	細粒黄色土斑紋あり	1015	15	
	灰色低地土	細粒灰色低地土灰色系	1305	30	
			1306	186	
		中粗粒灰色低地土灰色系	1308	10	
			1309	20	
	礫質灰色低地土灰褐色系	1322	74		
グライ土	中粗粒強グライ土	1405	25		
和良村	多湿黒ボク土	表層多腐植質黒ボク土	0432	84	同上
			0437	20	
	灰色低地土	細粒灰色低地土灰色系	1305	8	
			1306	11	
		中細粒灰色低地土灰色系	1309	25	
		礫質灰色低地土灰色系	1311	3	
〃 灰褐色系	1322	85			
白川町	多湿黒ボク土	表層多腐植質黒ボク土	0432	18	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。(当図幅にない土壤統は左記の記載を省いた。)
萩原町	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	152	同上
下呂町	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	111	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。
	黄色土	細粒黄色土斑紋あり	1017	55	
	褐色低地土	中粗粒褐色低地土斑紋あり	1213	40	

市町村名	土壌群名	土 壌 統 群 名	土壌群番号	分布面積 (ha)	備 考
下 呂 町	灰色低地土	礫質灰色低地土灰色系	1312	33	
		中粗粒灰色低地土灰褐色系	1318	67	
	グライ土	粗粒強グライ土	1403	12	
金 山 町	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	57	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。
	黄 色 土	細粒黄色土斑紋あり	1017	53	
	灰色低地土	礫質灰色低地土灰色系	1312	57	
		中粗粒灰色低地土灰褐色系	1318	42	
	グライ土	粗粒強グライ土	1403	26	
		中粗粒強グライ土	1406	12	
馬 瀬 村	多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	0409	27	同上
	灰色低地土	中粗粒灰色低地土灰色系	1308	21	
		礫質灰色低地土灰色系	1311	10	

(2) 畑地の部

市町村名	土壌群名	土 壌 統 群 名	土壌群番号	分布面積 (ha)	備 考
上之保村	岩 屑 土		0101	70	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。
八 幡 町	岩 屑 土		0101	70	同上
		黒ボク土	厚層腐植質黒ボク土	0308	
	表層腐植質黒ボク土		0326	30	
	黄 色 土	礫 質 黄 色 土	1010	44	
	褐色低地土	中粗粒褐色低地土斑紋なし	1203	9	
		礫質褐色低地土斑紋なし	1207	15	
和 良 村	岩 屑 土		0101	20	同上
	黒ボク土	厚層腐植質黒ボク土	0308	10	
		表層腐植質黒ボク土	0338	10	
	褐色低地土	中粗粒褐色低地土斑紋なし	1203	35	

市町村名	土壌群名	土 壤 統 群 名	土壌群番 号	分布面積 (ha)	備 考
萩原町	黒ボク土	表層腐植質黒ボク土	0337	53	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。(当図幅にない土壌統は左記の記載を省いた。)
下呂町	岩屑土		0101	93	同上
	黒ボク土	表層腐植質黒ボク土	0326	63	
金山町	岩屑土		0101	103	当図幅における分布面積は左記の分布面積の一部である。(当図幅にない土壌統は左記の記載を省いた。)
	黒ボク土	厚層腐植質黒ボク土	0308	58	
		表層腐植質黒ボク土	0326	16	
馬瀬村	褐色低地土	中粗粒褐色低地土斑紋なし	1203	5	同上
		礫質褐色低地土斑紋なし	1206	8	

5. 資料

- (1) 岐阜県農業試験場(1971~76)水田及び畑地土壌生産分級図
- (2) 岐阜県農業試験場(1979)地力保全基本調査総合成績書
- (3) 農業技術研究所化学部土壌第3科(1983)農耕地土壌の分類—土壌統の設定基準及び土壌統一覧表(第2次案改訂版)—
- (4) 土壌保全調査事業全国協議会(1986)土壌断面をどう見るか
- (5) 東海農政局岐阜統計情報事務所(1992)岐阜農林水産統計年報
平成3年~平成4年
- (6) 福富敏雄(1991)岐阜県の耕地土壌の実態と改善対策

IV 土地利用現況

1 農 地

本図幅内には、飛騨川が図幅東部を北から南に流れ、馬瀬川が図幅中央部を北から南に流れ、和良川が東西に流れ、馬瀬川に合流している。また、図幅西部には、吉田川が南に流れている。

農地は、これらの河川に沿って分布しているが、和良村内の和良川沿いにかなりまとまった農地が見られるものの、他の地域では地形的な制約もあり川沿いに細長く分布している。

これらの農地のうち、大部分は稲作として利用されており、和良村の一部の農地でトマトなどの野菜が栽培されている。

2 林 地

本図幅内の全ての町村において、林野率は87%を越えており、林野率は高くなっている。特に、明宝村、和良村ともに94.1%と非常に高くなっている。

所有形態では、地域内の9町村で民有林の比率が93.0%と高く、国有林はわずかである。本図幅内では上之保村、白川町で国有林が皆無である。

林地の約半分は人工林で、図幅全体に分布しており、植生はスギ、ヒノキである。天然林の植生は広葉樹がほとんどである。

本図幅内は、近年県内に多いゴルフ場やスキー場などの開発はなく、目立った土地利用は見られない。

3 市街地・集落等

本図幅東部を北から南に流れる飛騨川を挟んで、国道41号とJR高山線が並行して走り、図幅中央部には国道256号が、和良川及び馬瀬川に沿って走っている。また、図幅西部には国道472号が吉田川に沿って走っている。集落は、これら鉄道や国道沿いと鬼谷川、土京川などの河川に沿って点在している。このうち、JR下呂駅周辺は、飛騨川を挟んで温泉旅館が建ち並び、比較的大きな市街地を形成している。

1997年3月

印刷発行

岐阜県土地分類基本調査

〔下 呂〕

発行 岐阜県企画部地域振興課

〒500-70 岐阜市藪田南2-1-1

電話 (058) 272-1111

印刷 日新印刷株式会社

岐阜市蔵前2丁目3番1号